

5 近畿

国内・海外ともに増加傾向にある宿泊者数
伊勢神宮式年遷宮に伴う観光客数の大幅な増加
大阪・神戸で大規模再開発が進む

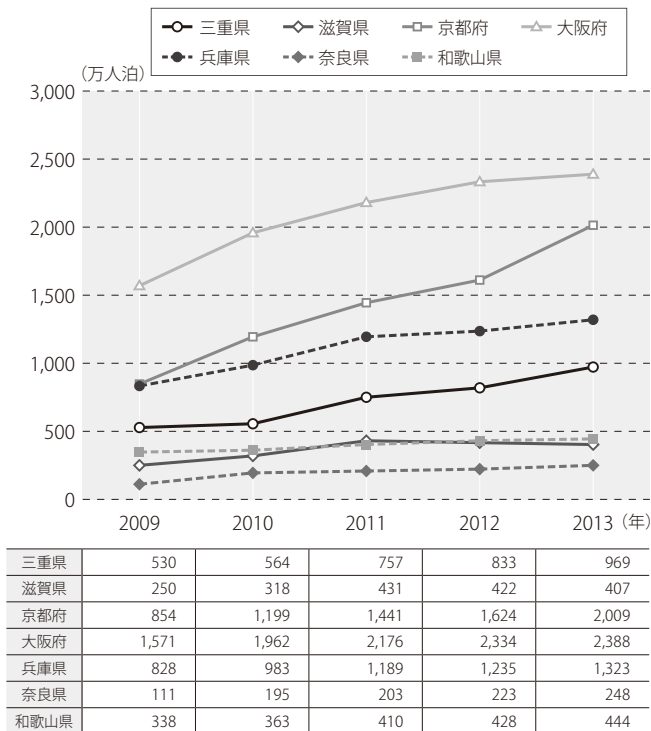
(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると13年1月から12月の近畿各県の延べ宿泊者数については、近畿全体では7,851万人泊となり、前年比10.6%増と、全国の地方のなかで最も大きい伸び率となった。国内の景気回復に加え、13年は20年に1度の伊勢神宮式年遷宮の年であったことから三重県への注目が集まったことなどが考えられる。また、大阪や神戸で観光施設や商業施設の新規オープンが相次いだことなどもトピックとして挙げられる。

延べ宿泊者数が増加したのは、京都府（前年比23.7%増）、三重県（同16.2%増）、兵庫県（同7.1%増）、奈良県（同11.2%増）、和歌山県（同3.7%増）となっており、減少したのが滋賀県（同3.4%減）のみであった。

一方、外国人延べ宿泊者数については、近畿全体では806万人泊となり、前年比31.1%増となった。国のビジット・ジャパン事業による訪日プロモーションをはじめ、訪日外国人旅行者の受け入れ環境整備の推進に対する各都道府県や自治体の取り組みが積極的に行われた他、LCCをはじめとする各国の航空会社による関西国際空港発着便の新規就航や増便などが見られた。また、円高の是正、東南アジア諸国に対するビザ発給要件の免除および緩和措置などの政策が後押し

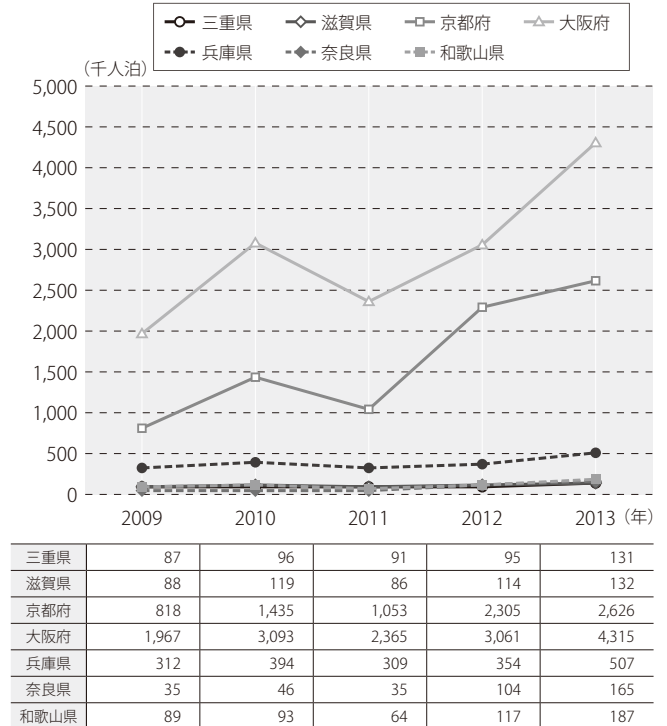
図IV-5-1 延べ宿泊者数の推移（近畿）



※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位：万人泊
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料：観光庁「平成25年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

図IV-5-2 外国人延べ宿泊者数の推移（近畿）



※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位：千人泊
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料：観光庁「平成25年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

し、過去最高の数値を記録した。

近畿各県はいずれも外国人延べ宿泊者数が増加しており、伸び率の多い順に和歌山県（同60.0%増）、奈良県（前年比57.8%増）、兵庫県（同43.3%増）、大阪府（同41.0%増）、三重県（同38.3%増）、滋賀県（同15.7%増）、京都府（同13.9%増）となっている。

(2) 主要観光地の動向

●伊勢・志摩・鳥羽

○伊勢神宮の式年遷宮

13年は20年に1度の伊勢神宮の式年遷宮の年であった。10月2日に皇大神宮（内宮）で、10月5日に豊受大神宮（外宮）で神宮式年遷宮の遷御の儀が執り行われた。三重県を訪れる観光客数は推計4,000万人を超え、推計方法が変わった05年以降過去最多を記録した。特に伊勢志摩地域では1,261万人と前年比4割増となった。

また、13年は出雲大社の平成の大遷宮「本殿遷座祭」の年でもあり、史上初めて遷宮の年が重なった。三重県と島根県はシンポジウムの協働開催や物産展の同時開催をするなど、観光PRの連携が展開された。その他、雑誌などで特集が組まれたり、旅行会社による伊勢神宮と出雲大社を周遊する旅行商品が販売されたりするなどの動きが見られた。

○近鉄、観光特急「しまかぜ」の運行

近畿日本鉄道は13年3月より観光特急「しまかぜ」の運行を開始した。13年の伊勢神宮式年遷宮に合わせて09年から導入の検討がなされていた観光列車で、原則週6日、大阪難波および近鉄名古屋と賢島を結ぶ各1往復で運行している。

運行以来満席が続いており、式年遷宮後も好調を維持している。14年10月には新たに1編成を増備し、京都～賢島の路線を1日1往復運行することが決まった。

●熊野古道

○熊野古道に対する和歌山県景観条例の施行

和歌山県は09年から施行している和歌山県景観計画を変更し、13年4月より新たな特定景観形成地域として白浜町とすさみ町の一部の区域について「熊野参詣道（大辺路）特定景観形成地域」を設定した。世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産のうち中辺路および高野山町石道についてはすでに特定景観形成地域として指定されており、今回の設定は世界遺産指定区域周辺の景観保全範囲を拡張するものとして期待される。

○熊野古道サポーターズクラブの立ち上げ

三重県は14年5月に熊野古道伊勢路を守り伝える活動を応援するためのクラブ「熊野古道サポーターズクラブ」を設立した。熊野古道のサポート活動（保全・啓発活動など）への参加体験などにより関心を高めることで、「保存会」や「語り部」、地元ボランティア活動などをサポートしたり、伊勢路の魅力をインターネット（特にSNS）などにおいて発信してその魅力を多くの方に伝えたりすることのできる人の登録を期待している。サポーターズクラブに登録すると、会員は活動状況に応じてファン会員（熊野古道に関心があり、その魅力を伝える人）、サポート会員（ファン会員のうち、サポート活動に一度でも参加した人）、特別サポート会員（サポート会員のうち、定期的にサポート活動に参加した人）へとステップアップしていく仕組みになっている。高齢化や少子化により、熊野古道の保全に関わる人材不足が顕著になってきているなか、この事業が果たす役割に期待が掛かる。

○三重県南部へのアクセスが向上

三重県南部の東紀州地域では高速道路（紀勢自動車道）の整備が進んだ。14年3月に紀伊長島IC～海山ICの間が開通したことにより、勢和多気JCTから尾鷲北ICに至る55.3kmの区間がつながることになった。これにより中京圏から三重県南部へのアクセスが大幅に良化した。

14年は世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が登録10周年を迎え、三重・和歌山両県ではさまざまなイベントが予定されている。高速道路の開通により来訪しやすい環境が整っており、集客が見込まれる。

表Ⅳ-5-1 三重県南部への高速道路開通状況

開通区間	開通日
紀勢大内山IC～紀伊長島IC	2013年3月24日
三木里IC～熊野大泊IC	2013年9月29日
紀伊長島IC～海山IC	2014年3月30日

各種資料より（公財）日本交通公社作成

●神戸／有馬温泉

○有馬温泉でまちづくり基本計画の策定

13年5月に有馬温泉の旅館やホテルなどの観光関係者からなる「有馬温泉まちづくり基本計画策定委員会」はまちづく

り基本計画をまとめた。基本計画では、「歩くだけで温泉・歴史が感じられる雰囲気、仕掛けづくり」や「まちづくりルールの検討」などを目標としている。

○温泉テーマパークの全面改装工事完了

14年2月に日帰り温浴施設「太閤の湯」が全面リニューアルオープンした。「太閤の湯」は有馬ビューホテルを05年に温泉テーマパークに改装した施設で、今回の改装では、約5億円の費用を掛けて施設を一新した。館内は有馬温泉を愛したと言われる豊臣秀吉にちなみ、安土桃山時代をテーマとした26の施設を配置した。また、14年6月には施設に隣接する庭園にウォーキングコース「歴史探訪ヘルスレーン『官兵衛古道』」をオープンした。温浴施設と組み合わせた森林セラピーのプログラムも提供している。

●京都

○京都ビジョン2040の策定

京都市では10年より市長や京都の各界のトップが「京都の未来を考える懇話会」を立ち上げ、30年後の京都の姿についての議論を重ねてきた。13年5月にその成果として「京都ビジョン2040」が取りまとめられた。30年後の京都のありたい姿として「世界交流首都・京都」を掲げ、1) 世界の文化首都・京都、2) 大学のまち・京都、3) 価値創造都市・京都を三つの柱としている。

○海の京都構想固まる

京都府は13年3月に日本海に面する5市2町（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）の観光を推進するため、「海の京都」構想を発表した。1) 民主導の観光まちづくりを進めるための仕組みづくり、2) 発信力・集客力のある「戦略拠点」の形成、3) 「戦略拠点」等を結ぶ観光交流基盤の整備、4) 戦略的な広域観光プロモーションを柱として掲げている。京都市は11月には平成25年度「海の京都」プランを策定した他、関係各市町は海の京都に関する詳細なマスタープランを策定した。

表Ⅳ-5-2 「海の京都」構想各市町マスタープランの対象エリア

市町名	エリア
福知山市	福知山城
舞鶴市	舞鶴赤レンガパーク周辺
綾部市	グンゼから大本に至る街並み
宮津市	日本三景の天橋立
京丹後市	浜詰（夕日ヶ浦温泉）・久美浜
伊根町	伊根浦地域内
与謝野町	ちりめん街道

各種資料より（公財）日本交通公社作成

(3) 主なトピック

●竹田城への観光客の急増と文化財保護対策

朝来市の国史跡「竹田城跡」がその雲海に包まれた姿が幻想的であることが話題となり、「天空の城」や「日本のマチュピチュ」などと呼ばれ観光客を多く集めるようになった。06年に日本100名城に選定されて以来、徐々に観光客数が増加

し、13年度は50万人を突破した。しかし、観光客の急増により、地面が荒れ、地中に埋まっていた16世紀末の天守閣の瓦が露出するなど、文化財としての価値が危ぶまれる事態となった他、13年11月には観光客の転落事故が起きるなど、安全管理上の問題も生じた。また、観光客による周辺道路の交通渋滞など、地元住民の生活にも影響が出るようになった。

朝来市ではこうした事態に対処すべく、2012年から新設された竹田城課や教育委員会を中心に史跡の保存と観光の両立を図ろうと試みている。

<入場料の徴収>

市は13年3月に「朝来市国史跡竹田城跡観覧料の徴収に関する条例」を定め、同年10月より史跡の保全費に充てるため高校生以上1人当たり300円の観覧料を徴収するようになった。

<交通制限>

13年10月より週末と祝日の朝のマイカー乗り入れを禁じた。さらに14年3月にはマイカーの乗り入れを全面的に禁じており、現在は原則としてタクシーかバスのみでの訪問が可能となっている。また、竹田城跡を周遊する路線バスを運行し、駅や街中の駐車場からバスでの訪問を促している。観光バスについては、14年5月より、ウェブによる観光バス予約システムを導入した。

<ルールの策定>

13年4月に竹田城跡の観覧ルートを設けた。城跡内は一方通行とし、フリー観覧範囲（雨天時や足元の悪い場合は入場制限を実施する）を定めた。また、竹田城跡への入山可能時間を定めた。

●姫路城の平成の大修理

09年10月より開始された姫路城大天守の保存修理工事は14年度中に終了する。11年度に開館した姫路城大天守修理見学施設「天空の白鷺」は保存修理工事を間近で見学できる施設だが、工事の進捗に伴い14年1月に閉館した。約2年10カ月の閉館期間中に184万人を超える来館者を集めた。

14年1月からは姫路城内の「リの一渡櫓」を「官兵衛の歴史館」として開設し、黒田官兵衛にまつわる資料やジオラマなどが展示されている。

●神戸ハーバーエリアで新たな観光スポット開業

13年4月に神戸阪急の跡地に複合商業施設「神戸ハーバーランドumie（ウミエ）」が開業した。NORTHMALL、SOUTH MALL、MOSAICの3棟で構成され、全225店舗が入店している。

また、神戸ハーバーランドumieの開業翌日には、隣接した敷地に体験型施設「神戸アンパンマンこどもミュージアム&モール」がオープンした。

●神戸ビエンナーレ2013の開催

神戸市では13年10月1日～12月1日の2カ月間にわたり神戸ビエンナーレ2013が開催された。07年以来2年ごとに開催され、13年は4度目の開催であった。13年はテーマを「さく“saku”」とし、11年に引き続き「まちの資源の再認識・再評価と魅力発信」「創造的人材の集積」「多様な市民参画と芸術文化の交流」「芸術文化活動の連携」の4点が基本理念として

設定された。

来場者数は目標の30万人を大幅に上回る37万人を記録した。

●大阪USJで過去2番目の入場者数を記録

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンは13年度の入場者数が1,000万人を超え、開業初年度（01年度）以来の記録となった。好調要因として、13年3月と7月にオープンした新たなアトラクションが人気を集めた他、2012年にスタートした家族向けエリアやハロウィーンなどの季節イベントが好評だったことが挙げられている。

●大阪市内で再開発が進む

大阪市内での再開発が相次いだ。13年4月にJR大阪駅北の梅田貨物駅跡地を中心とする梅田北ヤードにグランフロント大阪がオープンした。4棟のタワーからなる44,000m²の商業施設内には266店舗が入店する。また、英国系高級ホテルであるインターコンチネンタルホテル大阪が入店している。地下には最大3,000人を収容可能な会議場が併設されている。

14年3月には大阪阿部野橋駅の阿部野橋ターミナルビル旧本館を建て替えた「あべのハルカス」がオープンした。地上60階建て、高さ300mの超高層ビルで、横浜ランドマークタワー（296m）を超え日本一高いビルとなった。百貨店や事務所、ホテル、美術館、展望台を兼ね備えている。あべのハルカスには「大阪マリオット都ホテル」が入店している。

表IV-5-3 グランフロント大阪の特徴

名称	規模	主要用途
南館	敷地面積：約10,571m ² 延床面積：約187,800m ² 階数：地上38階・地下3階	オフィス・商業施設
北館	敷地面積：約22,680m ² 延床面積：約295,100m ² 階数：(タワーB) 地上38階・地下3階(タワーC) 地上33階・地下36階	ナレンジキャピタル、オフィス、商業施設、ホテル・サービスマネジメント、コンベンションセンター
うめきた広場	敷地面積：約9,920m ² 延床面積：約10,540m ² 階数：地上2階・地下2階	商業施設
グランフロント大阪オーナーズタワー	敷地面積：約4,666m ² 延床面積：約73,800m ² 階数：地上48階・地下1階	分譲住宅

各種資料より（公財）日本交通公社作成

●大阪市による歴史的建造物の活用に関する取り組み

大阪府は13年より「生きた建築ミュージアム事業」を開始した。生きた建築を「ある時代の歴史・文化、市民の暮らしぶりといった都市の営みの証であり、さまざまな形で変化・発展しながら、今も生き生きとその魅力を物語る建築物等」と定義し、それらを通して国内外の人々をひきつけるクオリティーの高いにぎわいへとつなげようとする試みである。

御堂筋エリア（御堂筋およびその周辺）に存在する、大阪の顔、水辺に向かって建つ建築、心意気あふれる多彩な民間建築、先端をゆく商業建築、戦後大阪の都市改造、大阪の都市居住といった六つのカテゴリーの計28建造物が選定されて

いる。建造物は大丸心齋橋店本館や高島屋東別館などの商業施設や北野家住宅や西長堀アパートなどの住宅施設、梅田吸気塔などの一風変わった建築物も含まれている。さらに11月には建造物公開やそれらを巡るツアー、トークセミナーを開催する社会実験を実施した。

また、大阪市は14年1月に選定された建造物の魅力の維持・発展のために必要と認められる工事費の一部を助成する「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション再生補助金交付要綱」を策定した。建造物の公開を前提に申請可能な補助金であり、今後の活用が見込まれる。

表IV-5-4 生きた建築ミュージアム・大阪セレクション

カテゴリー	名称
大阪の顔	梅田吸気塔
	大阪ガスビル
水辺に向かって建つ建築	ダイビル本館
	三井住友銀行大阪本店ビル
	ルポンドシエルビル
	日本聖公会川口基督教会
心意気あふれる多彩な民間建築	大阪証券取引所ビル
	生駒ビルヂング
	武田薬品道修町ビル
	船場ビルディング
	新井ビル
	堺筋倶楽部
	大阪商工信用金庫新本店ビル
	北野家住宅
	清水猛商店
	芝川ビル
	大阪倶楽部
	輸出繊維会館
	日本基督教団大阪教会
	今橋ビルヂング
グランサンクタス淀屋橋	
先端をゆく商業建築	大丸心齋橋店本館
	南海ビル(高島屋大阪店ほか)
	高島屋東別館
	食道園宗右衛門町本店ビル
	純喫茶アメリカン
戦後大阪の都市改造	船場センタービル
大阪の都市居住	西長堀アパート

資料：大阪市ウェブサイトより（公財）日本交通公社作成

●滋賀県長浜で株式会社黒壁による建造物再生進む

滋賀県長浜市でガラス事業を展開する株式会社黒壁は14年に大幅に店舗を刷新した。88年に第三セクターとして設立された黒壁は長浜の歴史的建造物の保存と再生に取り組んできた。年間観光客数は200万人を超えるなど、観光地としての成功を取めたが、2000年以降赤字経営が続いていた。そこで、設立から25周年を迎えた13年に経営再建を図ることと

なった。経営計画に「黒壁ルネッサンス」を掲げ、1) 古い町並みを活かす、2) 非常においしいレストランをつくる、3) フルラインアップのガラスを提供する、4) 黒壁コーディネートの特産品を提供することを事業戦略とし、日帰り観光客をターゲットに黒壁直営11店舗中10店舗をリニューアルすることとなった。また、黒壁美術館は14年7月に閉館し、フランス料理のレストランに改装される予定である。

●奈良県若草山へのモノレール設置の是非

奈良県は13年9月に世界遺産構成資産である春日山原始林に隣接する若草山に観光客用のモノレールの建設計画を発表した。若草山への入山者数はピーク時であった30年前の約4分の1の12万人にまで落ち込んでおり、モノレールの建設によって高齢者などの集客を見込んでいた。

この計画に対し、13年11月には「若草山モノレール敷設計画は中止を！緊急シンポジウム」が開催されたり、地元の市民団体による「若草山へのモノレール建設に反対する会」が立ち上がったりするなどの反対運動が起きた。また、14年6月には日本イコモス国内委員会がモノレールの建設は春日山原始林の世界遺産としての価値を失う可能性があることなどを指摘した。

14年6月現在、モノレールの建設についての最終的な判断はなされていないが、今後の動向が注目される。

●リニア中央新幹線停車駅の誘致競争激しく

東海旅客鉄道株式会社は13年9月、27年に東京・名古屋間の開業を目指しているリニア中央新幹線の東京・名古屋間の走行ルートと中間停車駅を発表した。リニア中央新幹線は45年に大阪までつながる計画だが、名古屋・大阪間の中間停車駅はまだ決定していない。中間駅の誘致をめぐる、京都府と奈良県では誘致合戦が激しさを増している。

●南紀熊野のジオパーク登録へ向けた取り組み

和歌山県では13年2月に南紀熊野ジオパーク推進協議会を設置した。関係する市町村は新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、串本町、北山村の1市7町1村で、まず14年中に日本ジオパークの認定、さらに16年秋に世界ジオパークの認定を目指す。

13年に協議会はテーマを「プレートが会って生まれた3つの大地」～大地に育まれた熊野の自然と文化に出会う～とした南紀熊野ジオパーク構想の基本計画書を策定した。

また、ジオパークの見どころとなるジオサイト候補地として102カ所が選ばれている。

●京都・嵐山の台風被害からの復旧

13年9月に発生した台風18号により京都・嵐山の桂川が氾濫し、渡月橋付近の90軒以上の旅館や土産物店が浸水被害を受けた。トロッコが3日間運行停止するなど台風直後は影響が見られたものの、ボランティアの支援などにより台風後1カ月以内に多くの施設は通常営業に戻った。

一方、車折神社では豪雨で被害を受けた施設の修復に多額の費用が掛かることを理由に、毎年5月に開催していた三船祭を中止することが決まった他、星のや京都でも水害の被害は大きく、14年2月ようやく営業を再開した。

(西川亮)